

二〇二五年度 茨城キリスト教大学一般選抜入学試験二期

国語

(解答は解答用紙に記入すること)

I 文章を読み、後の問に答えなさい。

「打ちことば」とは

電子メールが普及し、名刺にも電子メールのアドレスを印刷している人が多くなって久しい。電子メールは連絡手段として常態化したといつてよいだろう。最近はそのような人はあまりいないだろうが、電子メールを使い始めた頃は、「拝啓」からメールを始める人がいたと記憶する。これは、a を電子的に送っているという感覚だろう。このような時期においては、電子メールは一般的な「書きことば」に包摂されていたといえよう。現在では、電子メールやSNSのことばは、「話しことば」に接近しているといつてよい。両者とは異なる言語態とみて、「打ちことば」という呼称もある。

「打ちことば」は新語に強いことを謳う『三省堂国語辞典』の最新版である第七版(二〇一四年一月十日刊)にもまだ見出しとして採用されていない。『岩波国語辞典』第八版にも『新明解国語辞典』の第八版にも『明鏡国語辞典』の第三版にも見出しとして採用されていない。デジタル『大辞泉』は「打ちことば」を「〔話し言葉〕「書き言葉」に対して 携帯電話やパソコンのキーを使って (打って) 書かれた語句・語法。また、その文章。メールに使われる絵文字・顔文字や「アケオメ (明けましておめでとう)」などの略語による b した表現や、漢字を多用するなどの特徴があるとされる」と説明している。

「絵文字」や「顔文字」は「打ちことば」における「言語外情報」のようなもので、こうした点は「話しことば」的にみえる。パソコンを使ってキーボードを「打つ」場合と携帯電話やスマートフォンを使って「打つ」場合とでは、「打つ」環境が異なる。スマートフォンにおいては、「^{注1}トグル入力」ではなく「^{注2}フリック入力」がされることが多く、そもそも「打っていない」ことが多い。

「打ちことば」の発生によって、「書きことば」は「話しことば」側にひっぱられているようにみえる。少し前であれば、「ひっぱられることがある」

と表現しただろうが、現在では確実にひっぱられているといつてよい。特に「書きことば」の特徴であった「構造」という点においてそれが顕著にみえる。

なお、筆者は、原稿や論文をパソコンで作っているが、パソコンの場合、結局は何らかの「辞書（ソフト）」によつて文書を作成している。その「辞書（ソフト）」は携帯電話やスマートフォンよりもしつかりしていることが多いはずだ。また、打つための道具ともいえるキーボードも物理的にしつかりとしている。そうしたことを考え併せると、「打ちことば」の内部にさらにいくつかのカテゴリーを設定することもできそうだが、ここでは「打ちことば」というカテゴリーで述べていくことにする。

携帯電話やスマートフォンで電子メールを作成する場合、電子メールではあつても、特定の相手にそのメールを出す場合が多い。そうすると、「手紙」や「はがき」にちかくなってくる。ここでは「手紙」と「はがき」を特に区別せずに、「手紙」に包摂して述べていく。

「手紙」は非常に特徴のある「文書」といつてよい。特定の「読み手」を想定して作られる文書で、その「読み手」は一人であることが多く、かつ「書き手」と親しいことが少なくない。「書き手」と親しいということは、「書き手」と多くの「情報」を c はずで、わざわざ言語化しなくてよい「情報」が少なくない。そうした言語化されていない「情報」を背後に置いて、この手紙で伝えなければならないことに極度に特化されたことがらが文字化されている。それゆえ、「読み手」以外の人には、そこに書かれている「情報」がどういふことなのか分からない、ということがしばしば起こる。

^x 正倉院に残されている仮名文書がある。二通あるので、甲、乙と呼ばれているが、この仮名文書は文字としては読めている。しかし、内容がよくわからない。わからない理由は、現在イメージするような「書きことば」がまだできあがっていないためということも当然あるが、やはりそこで何が言語化されていて、何が言語化されていないか、ということが現在の「読み手」にはつかみにくい、ということがあると考える。あるいは明治時代に書かれたはがきを読むと、これまたわかりにくい。同じ「書き手」が同じ相手にだしたものを何通か読むと、だんだんわかつてくる。何通か読んでいくうちに、あるはがきにおいては言語化されていなかった「情報」が他のはがきを読むことでつかめるということがあるからだ。それでもわかりにくいことがある。

これと同じように、特定の相手を想定して「打った」メールは相手が想定されているだけに、「情報」が極端に限定されやすい。これは特定の人との間でかわされる「話しことば」にちかい。そういう「想定」のもとに「打って」いるから、「書き手」の気分もそういう気分になっている。ある程度の人数を「聞き手」として想定している「話しことば」よりもさらに限定されていることもあろう。

しばしばメールを交換している人同士では、お互いのメールアドレスが登録してある。 d メールアドレスを見慣れているから、メールに名前が書いてなくても誰からのメールかわかる。来たメールに返信をする場合も、同様だ。こうしたことに慣れてしまうと、メールに自分の名前を書

き忘れるということも起こる。メールに自分の名前を書かないということを手紙でいえば、名前を書き忘れて手紙を投函するということだ。手紙の場合は、字と内容とが手がかりになるが、よほど親しい相手からのものでなければ、誰からのものかはわからないかもしれない。名前の書き忘れを防ぐために、メールの最初に、相手の名前と自分の名前を必ず書くようにしている。名前が書かれていないメールが来ることもある。これは「打ちことば」に慣れてしまったために起こる現象といってよい。

ストックとフロー

こうした「打ちことば」に慣れてくると、「話しことば」はもちろん、「書きことば」にも「打ちことば」が影響を与えているということが起こり得る。筆者は言語を根幹で支えているのは「書きことば」だと考えている。

二〇一九年三月二十七日の『朝日新聞』朝刊の「オピニオン」面には新パブリックエディターに作家の高村薫^{かおる}、慶應大学教授の山本龍彦^{たつひこ}、地域活動家の小松理虔^{りけん}の三氏が就任したという記事が載せられていた。高村薫は「言葉の世界はいま、単語がならぶばかりのSNSの影響で弱体化しています。複雑な文章が読まれず、考えることがおろそかになっています。他メディアとの競争にさらされ、新聞も総花的で中途半端な存在になっていないでしょうか」と述べている。

「単語がならぶばかりのSNS」とあるが、絵文字やスタンプもある。LINEを始めるまでは「スタンプなんて使えるかいっ」と思っていたが、始めてみると、なかなか便利な場合もある。絵文字やスタンプは「紋切り型表現」の最たるものともいえよう。しかし、言語で表現すると言語量を費やさないと表現しにくく、かつ結局は過不足なく表現しにくいことが、言語表現を避けていただいたのではあっても表現できるといふこともある。言語表現ではないから、言語的な「誤解」を回避することもできる。「新しい表現」という側からみれば「新しい表現」といってよい。しかし、それがしつかりとした「e」を弱化させることもありそうで、バランスよく使うことは大事だろう。

『週刊読書人』第三三三三号（二〇二〇年三月二十七日発行）に與那覇潤^{なは}と大澤聡^{おさわ}の対談が載せられていた。大澤聡は次のように述べている。

……歴史を積み上げた先で自分たちの存在についてどう考えるかが教養主義のポイントだと仮に定式化するなら、近年はそうした構えは完全に失効しました。教養本がどれだけ流行^{はや}ろうとそれは別問題です。とりわけここ五、六年、ちょうど與那覇さんが充電なさっていた期間のメディア環境の変化に由来してもいるはずです。SNSが人びとの判断や思考のプラットフォームになった結果、ストックではなくフローですべてをとらえ

るモデルに切り替わった。「今・ここ」しかない。深層や奥行きが発見が「近代」であり「教養主義」であり「歴史」であり「人間」であるとすれば、新たなメディア環境はそれらをのつぺりとフラットに均^な均^なしてしまいました。ピンポイントでたまたま拾い上げた情報だけをたよりに考える。そんな「歴史なき歴史観」について「ポストヒストリー」という言葉をあてがってみたわけです。

「ストック (stock)」「フロー (flow)」は主に経済学で使われる用語で、「ストック」はある一時点において貯蔵されている量をいい、「フロー」は一定期間に流れた量をいう。何をどれだけ蓄積、貯蔵しているか、ではなく現在時において、どれだけモノを流せるか、ということだ。そこには「未来のために」「未来に備えて」という発想がそもそものいえるだろう。「ストック」が「書きことば」なら、「フロー」は「話しことば」と「打ちことば」だ。

「書きことば」が「打ちことば」の影響を受けて変化するということは、「根幹」が変化することである。言語は変化するものであるから、そのこと自体は「言語の宿命」として受け止めなければならない。[f]、「打ちことば」によつて「書きことば」が変化することも受け止めるつもりではいるが、そう思っているにも気になる。安定的な「書きことば」は必要ではないか。

(今野真二『うつりゆく日本語をよむ』より なお本文に適宜省略・改変を加えた)

- 注1 トグル入力……………携帯電話などでの文字入力方式の一つ。一つのボタンに複数の文字が割り当てられていて、ボタンを複数回押すことで異なる文字を入力する。
- 注2 フリック入力……………スマートフォンなどで用いられている文字入力方式の一つ。キーをタッチすると花びら状に開いて表示される文字の中から必要な文字を選んで入力する。
- 注3 パブリックエディター……………Public Editor。読者の代表の立場で、新聞などの内容を点検する役職。
- 注4 週刊読書人……………日本の書評新聞。
- 注5 與那覇潤……………一九七九年生まれ。歴史学者。評論家。
- 注6 大澤聡……………一九七八年生まれ。批評家。

問一 空欄 a に入れるのに最もふさわしい言葉を、それぞれア～エから選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|---------|----------|----------|------------|
| a | ア 情報 | イ 手紙 | ウ メール | エ ことば |
| b | ア 抽象化 | イ 擬人化 | ウ 一般化 | エ 簡略化 |
| c | ア 集めている | イ 探索している | ウ 共有している | エ 隠蔽している |
| d | ア また | イ しかし | ウ とりわけ | エ むしろ |
| e | ア 書きことば | イ 話しことば | ウ 打ちことば | エ 絵文字やスタンプ |
| f | ア なぜなら | イ たとえば | ウ だから | エ 特に |

問二 傍線部X「正倉院に残されている仮名文書」、傍線部Y「明治時代に書かれたはがき」について、筆者はこうした文書の例をあげてどのようなことを言おうとしているのか。その内容を「読み手」、「書き手」、「情報」という三つの言葉を使って、百字以内で書きなさい（句読点なども字数に含みます）。なお、三つの言葉には、カギ括弧かっこを付けなさい。

問三 傍線部Z「新たなメディア環境」について、次の問に答えなさい。

1 「新たなメディア環境」にはどのような特徴があるのか。最もふさわしいものをア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 多種多様なメディアがあり、必要な情報は誰でも簡単に入手することができる。
- イ 新聞など「書きことば」を使うメディアが価値のある情報だけを蓄積していく。
- ウ SNSなどとおして、その場限りの情報が大量に生み出されては消えていく。
- エ メディアからの情報は不正確で、人びとはその内容を見極めなければならない。

2 メディア環境が変化し、「新たなメディア環境」となった結果、どのようなことが起こったのか。次の空欄 あ と い に入れるのに最もふさわしい言葉を、本文中からそれぞれの字数で抜き出しなさい。

新しいメディアの影響で言葉の世界は あ(三字) し、人びとは「物事を考える」ということを い(四字) にするようになってしまった。

問四

次の1～6の文について、本文の内容にふさわしいものには○を、そうでないものには×をつけなさい。

- 1 現在、電子メールやSNSで使われていることばは、「話しことば」に近いものになってきている。
- 2 「打ちことば」が生み出され普及していくにしたがって、従来の「書きことば」の構造に変化が起きている。
- 3 電子メールで自分の名前を書かないことが多いのは、そうすることが暗黙のルールとなっているためである。
- 4 SNSで使われる絵文字やスタンプという言語表現には便利な面もあるため、それらを積極的に使うべきである。
- 5 近年、教養主義がその効力を完全に失った結果、日本は「ストック」よりも「フロー」を重視する社会に変化した。
- 6 言語が時代とともに変化していくのは「言語の宿命」であるが、その「根幹」まで変化してしまうようなことはない。

Ⅱ 次の各問に答えなさい。

問一 次の1～5の傍線部のカタカナを漢字で書きなさい。

- 1 多くの人々にメイワクをかける。
- 2 顧客へのジンソクな対応を心がける。
- 3 海外支店へのフニンを命じられる。
- 4 疲れたのでしばらくキュウケイする。
- 5 都会での暮らしにアコガれる。

問二 次の1～5の傍線部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- 1 経費の一部を税金で補填する。
- 2 彼に比肩する技術を持つ者はいない。
- 3 この地域では昔から窯業が盛んである。
- 4 会話を通して外国語の語彙を学ぶ。
- 5 いくつもの困難が旅人の行く手を阻む。

問三 次の1～5の四字熟語の□に当てはまる漢字を書きなさい。

- 1 一□兩断
- 2 喜怒□楽
- 3 栄□盛衰

4 □顔無恥

5 針小□大

問四 次の1～5の語句の表す意味として最もふさわしいものを、それぞれア～エから選び、記号で答えなさい。

1 言質^{げんち}

ア 話の中で最も大切な言葉

イ 後々に証拠となる約束の言葉

ウ ある人物が話した全ての言葉

エ いつまでも心に残っている言葉

2 主宰

ア 儀式や行事などをとり行うこと

イ 組織の中で重要な役割を担うこと

ウ 自分の意見や主張を公表すること

エ 人々の上に立って物事を行うこと

3 刮目^{かつもく}

ア 注意してよく見ること

イ 見て見ぬ振りをする事

ウ 大事なことを見落とすこと

エ 見たことを覚えておくこと

4 真骨頂

ア 自分が最も得意としてしていることがら

イ ある分野で大きな業績を残した人物

ウ 本来持っているありのままの姿や様子

エ 世間に知られていたのとは違う本当の事実

5 蓋然がいぜん

ア 曖昧なところがなく疑いようがないこと

イ 論理的に考えて必ずそのような結果になること

ウ 断言することはできないが多分そうだと思われること

エ よく知られているが現実ではめったに起こらないこと

問五 次の1～5の単語の対義語をそれぞれ後の【語群】から選び、記号で答えなさい。

1 委細

2 饒舌じょうぜつ

3 愚直

4 博識

5 卓抜

【語群】

ア	無知	イ	傑出	ウ	狡猾 こうかつ	エ	律儀
オ	寡黙	カ	拙劣	キ	概略	ク	平凡

国語 解答用紙

総 計

I

問一
a
イ
b
エ
c
ウ
d
ア
e
ア
f
ウ

小 計

解答例

特 定 の 「 読 み 手 」 を 想 定 し て ら	れ た 文 書 の 中 に は 、 言 語 化 さ れ て	い な い 「 情 報 」 が 少 な く な い た め	、 「 書 き 手 」 が 想 定 し た 「 読 み 手	「 以 外 の 人 が 、 そ れ を 読 ん で も 内	容 を 理 解 す る の は 難 し い と い う こ	と 。
(百字)						

小 計

問三
1
ウ

2
あ
弱体化
い
おろそか

小 計

問四
1
○
2
○
3
×
4
×
5
×
6
×

小 計

II

問一
1
迷 惑
2
迅 速
3
赴 任
4
休 憩
5
憧 れる

小 計

問二
1
ほてん
2
ひけん
3
ようぎよう
4
ごい
5
はばむ

小 計

問三
1
刀
2
哀
3
枯
4
厚
5
棒

小 計

問四
1
イ
2
エ
3
ア
4
ウ
5
ウ

小 計

問五
1
キ
2
オ
3
ウ
4
ア
5
ク

小 計

受験番号	
------	--